

教育目標

夢と希望をもって未来を拓いていけるよう次に掲げる生徒を育成する

- 一 自ら学び行動する生徒
- 一 健康でたくましい生徒
- 一 礼儀正しく心豊かな生徒

1 目指す学校像

- (1) 生徒が安心して安全に生活できる学校
- (2) 生徒・教職員が所属することに喜びと誇りをもてる学校
- (3) 夢の実現に向けて努力する生徒を全教職員でサポートしていく学校
- (4) 生徒一人一人の個性と特性を活かし、規律と活力のある学校
- (5) 地域との連携を深め、保護者・地域から信頼される学校

2 目指す生徒像

- (1) 社会変化に柔軟に対応し、未来を創造する力を身につけた生徒
- (2) 目的意識をもって主体的に学び、自己実現に向けて努力し続ける生徒
- (3) 「知・徳・体」の調和がとれ、明朗で礼儀正しい思いやりのある生徒

3 中期的目標と方策

- (1) ICT機器の効果的な活用などをおして自主的に学ぶ生徒を育成する
 - ア 研究推進委員会を中心に生徒が主体的にタブレット学習に取り組む授業の実践及び授業改善に取り組む。
 - イ **GIGA** スクール構想を視野に入れ、ICT機器の効果的な活用を推進し、タブレット端末を有効活用していけるよう最新の情報を意欲的に入手して新たな学び方を実現する。
 - ウ 総合的な学習の時間において、発見した課題をタブレットによる調べ学習や、話し合い活動をおして解決する能力を身につけられるよう **STEAM** 教育等教科横断的な学びの場を設ける。
 - エ 朝の読書活動を推進し、生涯にわたって読書に親しむ態度と読む力の向上を目指す。
 - オ 自主学習ノート、各種検定試験や学習教室などをおし、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせると共に基礎学力の定着を図る。

(2) 生活指導をとおして社会人として生きるための礎を築く

- ア 挨拶の励行、時間の厳守、生命尊重などを、教職員自らが率先垂範し、学校生活全体をとおして啓発・指導していく。
- イ 時と場に応じた礼儀・服装・言葉遣いなどを指導し、社会人となったときに困らないよう基本的なマナーを身につけさせる。
- ウ 情緒に関する特別支援教育研修会を実施し、全教職員で共通理解を深め、組織的・計画的に生徒と保護者に寄り添った支援を行う。
- エ 望ましい人間関係を築くため、全教員が担任であるという意識をもち、学級活動・特別の教科道徳の指導・給食指導などに副担任も加わり、組織として指導にあたる。
- オ 学校行事や部活動をとおして、生徒が活躍する場をつくり、喜びと自信をもたせ、中学校生活に充実感を与える。
- カ 日々の学校生活をとおして規範意識を醸成し、義務教育修了までに、損得ではなく、善悪を考えて行動できる力を身につけさせる。
- キ 薬物乱用防止教室や栄養士による食育講話などをとおして健康に留意して生活していく下地をつくと共に生命尊重の精神を抱かせる。
- ク ICT 機器の急速な発展に伴い、情報リテラシーについて正しく理解させ、自他を守るスキルを身につけさせる。
- ケ 通常の時間帯に登校できない生徒、登校が苦手な生徒の学習の場としてエンカレッジルームを活用し、登校しやすい環境を整える。また、エンカレッジルーム登校を積み重ね、教室へ戻れるよう支援する。

(3) 地域組織・関連機関と連携した学校運営

- ア 学校公開・学校だより・ホームページをとおして、定期的に情報を発信し、学校に対する理解と協力を求める。
- イ ボランティア活動や地域行事での体験をとおし、周りの人をおもいやる心・社会に奉仕する心を育てるなど、心の教育を推進する。
- ウ コミュニティスクールを念頭におきながら、学校支援地域本部との連携を強化し、生徒の学びに活かせるよう教育環境を整えたり、地域行事への教員の参加を促す。
- エ 改築工事に向け、教育施設担当と情報交換を定期的且つ綿密に行い、改築工事が滞りなく行えるよう強固な協力体制を築く。
- オ 日頃から、大田区教育委員会、つばさ教室、教育センター、子ども家庭支援センター、児童相談所、警察署、消防署との連携を重視し、サポートしていただける環境を整える。

4 本年度の目標と方策

(1) 自主的に学ぶ生徒の育成

- ア 生徒一人一人に夢を抱かせ、目的意識をもって学習に取り組めるようサポートする。

- イ 「毎日の家庭学習～学習の仕方～」を活用し、家庭における予習・復習（自主学習ノート）を定着させ、＜できる喜び＞＜わかる喜び＞を実感させて学習意欲と自信をもたせる。
- ウ 学習に対する目標を明確に示し、生徒に「何を学ぶのか」「どのようにして学ぶのか」を意識させる。
- エ 研究推進委員会を中心に、生徒の効果的なタブレット端末学習方法について研究授業を行うなど実践的研修を行う。
- オ 校内研修に加え、日頃からタブレット端末活用方法について意欲的に情報交換を行い、教員同士が切磋琢磨して学習指導力を向上させる。
- カ グローバルな視点で物事を考えられるよう在学中に CEFR A1 レベル相当以上のスキルを身につけさせる。
- キ 特にキャリアの浅い教員は校内・校外の隔てなく、意欲的に数多くの授業見学を行い、授業力向上に努め、授業で生徒に還元する。

(2) 凡事徹底を基盤とする予防的な生活指導

- ア コミュニケーションの基本である明るく元気のよい挨拶を教職員が率先垂範して行う。
- イ 機会あるごとに生徒を褒め、認め、励まし、生徒に自己肯定感と自己有用感を抱かせる。
- ウ 子どもの心サポート月間（6月と11月）でのメンタルヘルスチェックと、学級集団調査（WEBQU）の分析により、生徒の悩みなどを早期に発見し、迅速に対応する。
- エ スクールカウンセラーによる全校生徒面接を実施し、生徒が抱える問題を把握し、組織的に解決に導けるシステムを構築する。
- オ 「早寝・早起き・朝ごはん」（5月と10月）の取り組みをとおして、家庭と連携し、心と体の健康づくりを推進する。特に大型連休明けの5月は中学校生活に慣れたばかりの新入生にとって、重要な取り組みとなるので指導をより徹底する。
- カ 「修学旅行見送り隊」の活動をとおして、1年生と2年生が主体的に活動する場面を設定する。また、本活動を思いやりの心を育てる場の一つとする。
- キ 生徒を見守る時間・コミュニケーションを図る時間を少しでも増やし、些細なことでも生徒を褒め、認めることで信頼関係を高め、予防的な生活指導に力を注ぐ。
- ク 学期に1回朝礼などの場を使って、栄養士が食育講話を行い、健康を左右する食事についての知識を身につけさせる。

(3) 地域組織・関連機関と連携した学校運営

- ア 土曜日に年3回の学校公開と、体育祭、学芸祭を設定し、保護者はもちろん地域の方にも広く公開し、生徒・教職員の様子を直接ご覧いただき開かれた学校づくりを推進する。

- イ 学校支援地域本部にサポートしていただきながら、国際理解教育・ボランティア活動・学校美化活動を推進する。
- ウ 学校防災活動拠点校として、地域、馬込特別出張所と連携し、1年生を含めた防災訓練を行い、自助・共助の精神を醸成し、有事の際には中学生が防災拠点の働き手となれるよう技能を身につけさせる。
- エ 入学した生徒が小学校から中学校へ円滑な移行ができるよう日頃から情報交換を綿密に行うと共に小中一貫教育をより一層推進する。
- オ アルミ缶回収運動をとおして、地域に貢献する心と地域を愛する心を育てると共に SDGs について考えさせ、生涯にわたり自ら環境を守っていく態度を身につけさせる。
- カ 生命尊重の精神や、相手の立ち場を思いやる心など、豊かな心をもった生徒を育てる。
- キ 今年度、開校 70 周年を迎えるにあたり、地域と協力して式典の準備を計画的に進めていく。

(4) 信頼される評価・評定の実施と学校評価を基にした教育計画の改善

- ア 各教科の評価規準や評価方法を明確にし、信頼される評価・評定を付けられるよう留意する。同一教科間、本校に同一教科の教員がない場合は他校同一教科間で情報収集・情報交換を綿密に行うと共に成績を付ける根拠となるデータを可能な限り多く集めて、生徒・保護者が十分に納得できる公正で適正な評価・評定を付けられるよう細心の注意を払う。
- イ 生徒・保護者・学校運営協議会からの評価を受け、教育計画の改善・充実に努める。

(5) 学校の教育活動全体をとおしての道德教育の推進

- ア 教科用図書の内容に加え、日々の学校生活の出来事を取り上げて考えさせ、よりよく生きるための基盤となる道德性を醸成する。
- イ 道德授業地区公開講座では、保護者・地域に広く道德授業を公開し、協議会での意見交換を基に授業改善を行い、授業力の向上を図る。

(6) 教職員の資質向上とライフワークバランスの推進

- ア 大田区学習効果測定をはじめ、学習状況調査結果に基づく授業改善プランを2学期開始前までに作成し、全教員の授業力を向上させる。
- イ 全教員が ICT 機器を活用した研究授業を行い、互いに切磋琢磨しあいながら ICT 機器操作のスキルアップを図り、授業力を向上させる。
- ウ 教育職員は教育公務員及び地方公務員であること、行政職員は地方公務員であることに自覚と誇りをもって職務にあたる。
- エ 校務支援端末を活用し、各種データの共有化を図って業務の効率化を推進したり、定期考査日に休暇取得を促したり、部活動のない日に定時退勤を勧めるなど、積極的に教職員に働きかけてライフワークバランスを推し進める。